



私のひとりごと

「慎む心」

2月でこれほど雪が無いのも珍しい。このまま春になるのかと勘違いしてしまうほどである。もしかしたら春になるのかもしれないが“そうは問屋が卸さない”だろう。これまで、過度な期待をして上手くいかなかった経験を数多く持つ私は、こんな喜ばしい現実もなかなか素直に受け入れられないのである。

そんな中、車屋さんから一冊の雑誌が届いた。表紙は、菜の花畑の向こうに一台の小さな自動車が顔を出している写真である。その写真は私の心を見事に打ち抜いた。咲き誇る菜の花の間に、ワダチのある道が力強く写っている。その道は明日に続く道のようにも思われ、いつしか私の心はその道を歩き始めていた。また、菜の花の向こうに見え隠れする様に写る小さな自動車には、慎み深ささえ感じてしまう。この写真を、カメラマンがどれほどの意図を持って撮影したかは不明であるが、単純な私の心を射止めるには十分過ぎる見事なアングルである。



私はかねてから、“言葉を語らずとも人の心に語りかけるハート”を持ちたいと願っている。そんな私に、慎ましく写るその自動車は、「言葉を慎み」「物を慎み」「身を慎む」ようにと、語りかけているように感じた。ところが現実はと言えば……。風呂の湯は止めるのを忘れて出しっ放し。夜は夜で、電気やストーブを付けっぱなしでうたた寝。朝には家計を預かる奥様から「まるで湯水のように灯油を使う!」とお叱りを受ける。まさに返す言葉も無い。逃げる様に仕事場へ向かおうとすれば、「今日はゴミの日!」と呼び止められ、イラダチまぎれに車に積み込んだ生ゴミは収集場に出し忘れる始末……。あぁ～……。 「慎み」とは程遠い日々に、全く恥ずかしい限りである。

ではまた来月もお会いしましょう。
今月も最後まで読んでいただき……

あーがしう
ございました!!

